

.....
本会記事



第12回国際フェライト会議 (The 12th International Conference on Ferrites: ICF12)

本年10月29日～11月1日、アメリカボストンのHyatt Regency Boston Harborにおいて第12回国際フェライト会議が開催されることが決まり、現在講演募集が行われております。

前回の第11回国際フェライト会議(ICF11)は、2013年に沖縄で開催されました。その後、インドでの開催も案として挙がっておりましたが、開催に至らず、フェライト研究者から国際会議開催が熱望されていきました。Northeastern大学のProf. Vince Harrisのご尽力により、IEEE Magnetics Societyの主催で、漸くICF12開催に至りました。

ここで、これまでの国際フェライト会議の歴史を紐解いてみたいと思います。遡ること49年前の1970年に第1回国際フェライト会議(ICF)が、京都国際会館で行われました。ICFは当会が主催した初めての国際会議であります。“フェライトの父”と呼ばれた武井武先生のもと、杉本光男先生をはじめ産学官界から多くの方々が集まり、初めての国際会議開催ということで、日々泊まり込みで準備にあたられたと聞いております。ICF1は、15のセッションに分かれて、約170件の発表があり、そのうち日本からは100件近くの発表がありました。参加者も約600名と非常に多く、委員各位のご尽力の賜物であったと思います。

Table 1にICFの開催地を挙げておりますが、日本では京都、東京、沖縄と過去5回開催され、中でもICF6が講演件数370件、参加者700名超と大規模なものになりました。前回沖縄で開催されたICF11は、講演件数160件、参加者約290名とやや小規模でしたが、展示会場とポスター会場を併設されるなど、コンパクトでありましたが、活気あふれたものになりました。海外で開催された中では、2008年中国で開催されたICF10には日本から約30名の方がツアーを組んで参加され、本会議前に「横点集団東磁有限公司」の工場見学をされるなど、非常に関心の高いものでした。

また、本会議の創設者でもある武井武先生を讃えて、ICF4開催時にその時のconference co-chairmanの一人、Alex Goldman博士の提案でTakei Takeshi Awardが設けられ、武井武先生に授与されました。ICF11までの各大会で本会議ならびにフェライト研究で多大な功績を残された方8名に同賞が授与されております(Table 2)。第3回受賞の杉本先生と第11回受賞のSrivastava先生のお二人だけが、第1回から第11回までの全会議に参加されており、この功績は多大なものであります。

今回開催されるICF12は、“Superconductors”や“Bio and Medical Applications”など27のTechnical Topicsが設けられ、広く磁性材料の分野について講演募集が行われています(Abstractの提出期限:7月29日(月))。磁性材料は、当協会春秋大会においても毎回非常に盛んで、発表や活発な質疑応答が行われており、また、経済産業省生産動態統計によると、粉末冶金製品としての磁性材料も2018年の国内生産は硬質磁性材料ならびに軟質磁性材料ともに増加傾向にあるとのことです。フェライトを含む磁性材料にこれからの注目が集まり、ICF12が盛会になることを望みます。当会ホームページからもリンクをしていますが、“icf12bostom.com”で検索頂き、是非多くのご発表を頂ければと思います。(井上 羊子)

Table 1 国際フェライト会議開催地

	開催年	開催都市
ICF1	1970	Kyoto
ICF2	1976	Paris
ICF3	1980	Kyoto
ICF4	1984	San Francisco
ICF5	1989	Mumbai
ICF6	1992	Tokyo
ICF7	1996	Bordeaux
ICF8	2000	Kyoto
ICF9	2004	San Francisco
ICF10	2008	Chengdu
ICF11	2013	Okinawa
ICF12	2019	Boston

Table 2 Takei Takeshi Award Winner

第1回	Dr. Takeshi Takei	Professor Emeritus, Keio Universit, Japan
第2回	Dr. H. P.J. Wijn	Philips Eindhoven, Netherland
第3回	Dr. Mitsuo Sugimoto	Teikyo University of Technology, Japan
第4回	Dr. Alex Goldman	Ferrite Technology Worldwide, USA
第5回	Dr. E. F. Bertaut	C.N.R.S., France
第6回	Dr. J. F. Dillon	Bell Laboratories, Murray Hill, USA
第7回	Dr. M. J. Ruthner	RTR Ruthner GmbH, Austria
第8回	Dr. C. M. Srivastava	Indian Institute of Technology, Bombay, India